

茨城大学学報

第303号

平成24年6月～平成24年7月



オープンキャンパス2012の様子（水戸キャンパス）

INDEX

- ◆ ガジャ・マダ大学大学院と修士ダブルディグリー教育プログラムの覚書を締結
- ◆ 平成23年度教養教育推奨授業表彰式
- ◆ アメリカの高校生が五浦美術文化研究所を訪問
- ◆ 原子力機構による大学公開特別講座を開講
- ◆ 天心が結ぶ大学連携（茨城大学・横浜国立大学）
- ◆ 茨城大学同窓会連合会と茨城大学役員との懇談会（第6回）を開催
- ◆ オープンキャンパスに6435名の参加
- ◆ 電子黒板・デジタル教材の活用に関する講習会を開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

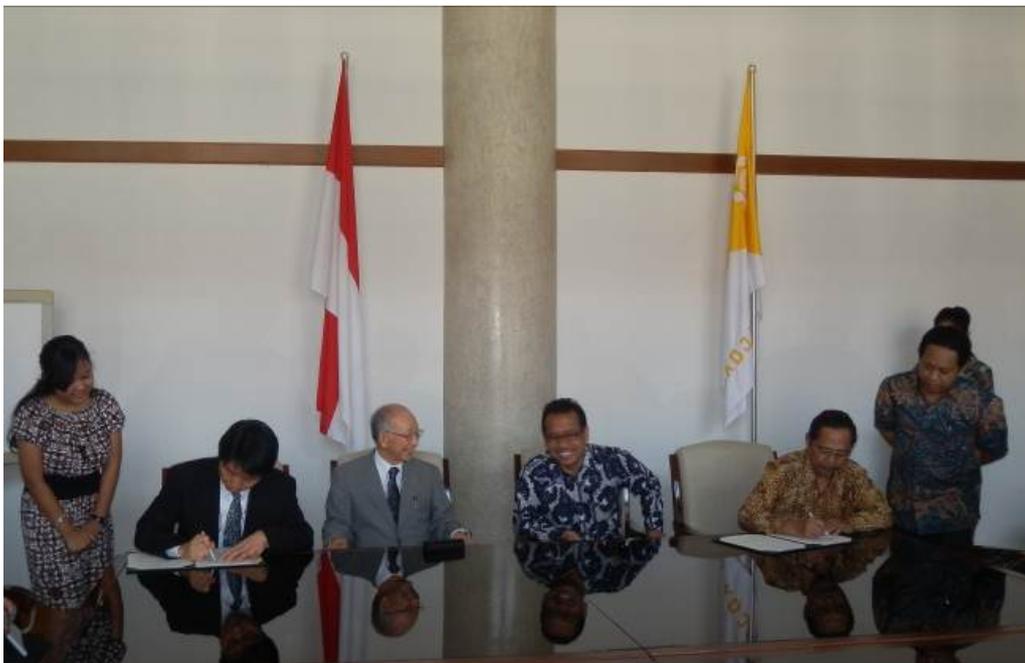
◆ インドネシア共和国 ガジャ・マダ大学大学院と 修士ダブルディグリー教育プログラムの覚書を締結

茨城大学大学院農学研究科は、平成23年9月にインドネシア共和国のボゴール農科大学、平成24年3月にはウダヤナ大学とダブルディグリー教育プログラムの覚書を締結してきました。さらに、平成24年6月23日にはインドネシア共和国ジョグジャカルタ市において、ガジャ・マダ大学大学院と3校目となるダブルディグリー教育プログラムの覚書を締結しました。

茨城大学農学部とガジャ・マダ大学農学関連学部連合は、平成12年に学部間協定を締結して以来、授業科目「熱帯農業フィールド実習」の共同実施、研究者の活発な相互交流などを行っており、平成22年には大学間交流協定を締結し、本年はダブルディグリー教育プログラムの覚書の締結となりました。

この教育プログラムは大学院修士課程の学生が茨城大学とガジャ・マダ大学の双方の大学院に所属し、それぞれの大学における教育を受け、修士論文研究を実施することにより双方の大学の学位（修士）を取得するプログラムです。本教育プログラムは本年10月から開始する予定であり、今後双方の教員と学生の活発な交流がさらに深まることが期待されています。

調印式には、茨城大学池田幸雄学長とガジャ・マダ大学プラティクノ学長を始めとする関係者が出席し、茨城大学の太田寛行農学研究科長とガジャ・マダ大学のハルトノ研究科長が覚書にサインをしました。



池田幸雄学長とプラティクノ学長を挟んで、サインをする太田寛行農学研究科長とハルトノ研究科長

◆ 平成 23 年度教養教育推奨授業表彰式

茨城大学大学教育センター（佐藤和夫センター長）では、毎年、授業の改善及び教育力の向上を目的とした推奨授業表彰制度を 2001 年度に制定し、教養科目の中から優れた取り組みをし、成果をあげた授業を表彰しています。

平成 23 年度の授業からは、岡山陽子准教授（大学教育センター）の「総合英語（レベル 4）」と平澤剛教授（工学部）「数学（微分積分Ⅱ）」の 2 件が選ばれ、平成 24 年 7 月 3 日（火）に学長室において、表彰式が執り行われました。受賞者に対し、池田幸雄茨城大学長は、「お二人は授業アンケートの結果から、非常に高い満足度を得ている。学士課程においては、満足度は高いことが必要だが、やさしすぎても学生は満足できない。また、やる気と満足度は非常に関連性があり、お二人とも学生のやる気をどんどん引き出す授業をされている」と祝意を述べました。

また、受賞者との懇談の中で、それぞれの授業の取り組みに対し、「お二人は共通教育に終わらない、本当の意味でのリベラル・アーツ（教養教育）をされている。今後とも学生にやる気を起こさせる良い授業をしてもらいたい」との励ましの言葉を贈りました。



表彰式後の記念写真

（前列左から 平澤剛工学部教授、池田幸雄茨城大学長、岡山陽子大学教育センター准教授
後列左から 戸嶋浩明大学教育副センター長、佐藤和夫大学教育センター長）

◆ アメリカの高校生が五浦美術文化研究所を訪問

7月4日（水）日本政府が進める「キズナ強化プロジェクト」の一環で、アメリカのカリフォルニア州とミシシッピ州の高校の中から3校、75名の高校生が茨城大学五浦美術文化研究所を訪問しました。

「キズナ強化プロジェクト」は、アジア太平洋・北米地域（41カ国・地域）との間で、1万人以上の青少年（高校生・大学生等）交流を実施し、高校・大学交流、地域交流、ボランティア活動を通して、被災・復興経験を共有し、日本再生に関する外国理解を増進すると共に、被災地の復興に貢献するものです。

今回は、北茨城市と日立市を訪れ、被災地の視察やボランティア活動状況調査、地域交流・文化体験などが実施されました。茨城大学では、五浦美術文化研究所が受入主体となり、留学生センターと社会連携課の協力の下、関係教職員とボランティア学生の計30余名がホスト役を務めました。訪問団は天心邸や六角堂を案内され、震災被害と復興事業について説明を受けたほか、天心記念館において六角堂流失から復興までのビデオを鑑賞しました。

施設見学後は、高橋修・五浦美術文化研究所長による「茨城の文化財・歴史資料のレスキュー活動」と題した講話をボランティア学生の通訳で聞いた後、五浦観光ホテルの女将による茶道実演やボランティア学生との交流会が行われました。

訪問団の代表者からは、「訪問まではキズナという言葉の意味がわからなかったが、いろいろな人たちから話を聞いて理解できた。今回見たり聞いたりしたことは、アメリカへ帰ってからみんなに伝えていきたい。今日は茨城大学の学生さんと交流ができて大変うれしかった。」と日本語で感謝の言葉が述べられ、茨城大学の学生へ記念品が贈呈されました。



天心邸で説明する高橋所長



茨城大学学生との交流会の様子

◆ (独) 日本原子力研究開発機構による大学公開特別講座を開講

茨城大学工学部は、7月5日(木)10番教室(E1棟1階)において、日本原子力研究開発機構の「大学公開特別講座」を開催し、教職員・学生及び一般者の39名が出席しました。

初めに友田陽 茨城大学工学部長から、昨年度に引き続き、日本原子力研究開発機構の研究者を大学に招き、最新の研究開発状況を説明してもらう「大学公開特別講座」の開催趣旨説明があり、企画担当の横木裕宗 教授から講師の紹介がありました。

続いて、日本原子力研究開発機構 安全研究センター 機器・構造信頼性研究 Gr. 勝山仁哉 研究副主幹より「原子力発電所主要設備の構造信頼性評価に向けた最先端シミュレーション技術」と題した講演がありました。原子力発電施設における主な経年劣化事象をはじめ、長期供用された軽水炉機器の構造健全性を確保するための取り組み及び最先端シミュレーション技術について、丁寧な説明がなされました。

講演後の質疑応答では講演内容に関する専門的な質疑応答が多くありましたが、福島原発事故に関する素朴な質問に対しても丁寧に現状を説明していただきました。長時間にわたり学生や教職員から多くの質問がされ有意義な「大学公開特別講座」となりました。

(独立行政法人日本原子力研究開発機構では、原子力の基礎・基礎分野から実規模技術検証を目指した大型プロジェクトまで原子力の総合的研究開発を行っており、併せて、研究開発活動の現状と成果などについて広く理解して頂けるよう積極的な情報提供として、学生等を対象とした「大学公開特別講座」を実施しています。)



「大学公開特別講座」の講演風景

◆ 天心が結ぶ大学連携（茨城大学・横浜国立大学）

茨城大学（池田幸雄学長）は、7月13日（金）横浜国立大学（鈴木邦夫学長）に対し、東日本大震災で流失し海中から回収された六角堂の鬼瓦や今回の復元で新たに作られた鬼瓦、イギリスに特注した窓ガラス、写真パネルなど六角堂復興関連資料計30点を寄贈しました。

横浜市は、明治期の思想家・岡倉天心の出身地で、来年生誕150周年の記念事業を企画している横浜国立大学から、五浦在住に関わる資料が必要不可欠であることから茨城大学へ寄贈の依頼がありました。横浜国立大学では、記念事業としてこれらを学内のミュージアムに展示し、シンポジウムなども予定しています。

寄贈式に際し茨城大学の池田幸雄学長は、「天心はグローバル人材の先駆者であると共に、様々な逆境を乗り越えてきたことなど学ぶべきものが多く、横浜国立大学と共にアピールしていきたい。」と挨拶し、横浜国立大学の鈴木邦夫学長は、「六角堂の早々の復元に茨城大学のパワーを見せられた。横浜国立大学には留学生も多く、天心の国際性を推奨したい。横浜は生誕地でありながら、天心についてあまり知られていない。今回の事業をきっかけに茨城大学と知的財産を共有し、連携を深めていきたい。」と述べました。

寄贈式後は、鈴木学長による、横浜国立大学における大学改革について講演会が開催され、茨城大学からは教育研究評議会構成員が中心に出席し、活発な質疑応答が行われました。天心ゆかりの地にある2大学が、天心が縁となり大学連携を深めるきっかけとなることが期待されています。



復元された鬼瓦を寄贈する池田学長（左）と鈴木学長（右）

◆ 茨城大学同窓会連合会と茨城大学役員との懇談会（第6回）を開催

平成24年7月25日（水）、茨城大学事務局会議室において「第6回茨城大学同窓会連合会と茨城大学役員との懇談会」を開催しました。

この懇談会は、茨城大学同窓会連合会の事業の1つである「茨城大学との連携及び協力」の一環として、毎年1回開催しているものです。

同窓会連合会関係者9名及び大学役員等関係者17名の出席のもと、池田学長から茨城大学の現況の報告及び大学を取り巻く情勢の説明等があり、また各学部同窓会会長から各同窓会の近況報告等があり、地域に根ざした茨城大学の発展のための連携強化があらためて提案されるなど、和やかに懇談が行われました。



懇談会の様子

日時：平成24年7月25日（水）11：30～13：00

場所：水戸キャンパス 事務局2F 第3会議室

出席者：26名

| 茨城大学（17名） | | 茨城大学同窓会連合会（9名） | |
|-----------|-------|----------------|---------------------|
| 学長 | 池田 幸雄 | 会長 | 久保田益充（理学部同窓会会長） |
| 理事・副学長 | 田代 尚弘 | 副会長 | 土田 惣一（文理・人文学部同窓会会長） |
| 理事・副学長 | 神永 文人 | // | 堀川 賢壽（教育学部同窓会会長） |
| 理事（総務・財務） | 山本 恵一 | // | 臼井 敏雄（多賀工業会会長） |
| 理事（事業） | 影山 俊男 | 代表幹事 | 佐久間 隆（理学部同窓会常任理事） |
| 監事 | 矢口 一美 | 幹事 | 佐藤 瑛一（教育学部同窓会幹事長） |
| 副学長 | 田中 重博 | // | 大貫 仁（多賀工業会幹事長） |
| 人文学部長 | 佐々木寛司 | // | 井上 栄一（農学部同窓会（代理出席）） |
| 教育学部長 | 尾崎 久記 | 会計監事 | 杉田 龍二（多賀工業会理事） |
| 理学部長 | 堀 良通 | | |
| 農学部長 | 太田 寛行 | | |
| 総務部長 | 松田 栄二 | | |
| 学術企画部長 | 川島 清人 | | |
| 総務課長 | 塚田 昌毅 | | |
| 総務課課長補佐 | 高松 尋一 | | |
| 総務課総務係長 | 三浦 範昭 | | |
| 総務課総務係員 | 奈良橋敏郎 | | |

懇談会進行内容

- 11 : 30 懇談会開会
久保田会長挨拶
- 11 : 35～ 自己紹介
- 11 : 40～ 懇談（昼食）
- 12 : 00～ 池田学長挨拶及び
大学に係る近況報告
各同窓会会長からの近況報告・要望等
- 12 : 55 閉会
- 13 : 00 写真撮影



挨拶する久保田会長
（左は池田学長）



懇談会終了後の記念撮影

◆ オープンキャンパスに6435名の参加

茨城大学では、7月28日（土）に平成24年度オープンキャンパスを開催しました。当日は猛暑の中、早朝から高校生や保護者が続々と来場し、6435名の参加がありました。

正門前では、教職員と学生が、笑顔で大勢の参加者を出迎えました。参加者は、学部説明会などを熱心に聞いたり、公開授業を聴講していました。

会場内の各種相談や入試相談コーナー、過去問題閲覧・配布コーナー、保護者説明会などどこも盛況で、とくに在学生による相談コーナーやキャンパスツアー、サークルパフォーマンスなど、学生の積極的な参加によるものが好評で、オープンキャンパスを終日盛り上げました。



来場者（高校生）の相談に答える在学生たち

◆ 電子黒板・デジタル教材の活用に関する講習会を開催

7月31日（火）教育学部附属教育実践総合センターと学校教育教室の共催により、「電子黒板・デジタル教材の活用に関する講習会（初級編）」が開催され、教育学部教員及び附属学校教員が多数参加しました。

水戸市教育委員会総合教育研究所 ICT 指導員中島優子氏から電子黒板の特徴として、音声・動画で興味を持たせることができる、重要な箇所を拡大マーキングできる、文字と言葉だけでは伝えにくい部分を動画で説明することができることが挙げられました。講習会では、電子黒板を実際に操作して裁縫の授業を行った例や、保健の授業で手洗いの順番を教えるために教師が制作した教材を実際に使用しながら、電子黒板の説明が行われました。

参加者との意見交換では、実際に操作でき電子黒板の利点を感じることができ、実際の授業場面を想定した使い方を見せて欲しい等、教育現場でデジタルコンテンツへの関心の高さが感じられました。

茨城大学教育学部では今後、初級編を1回、デジタル教科書使用編を2回開催する予定です。



電子黒板・デジタル教材の説明を聴く教員の方々